

# 行政視察報告

## ■総務文教委員会

- 一 調査事項 ①教育行政について
- ②消防・防災行政について
- 二 調査先 甌島地域
- 三 調査項目
  - 全小・中学校、旧浦内小学校、中央消防署上甌分駐所及び下甌分駐所、蘭牟田瀬戸一号トンネル、恐竜化石発見現場並びに航空自衛隊下甌分屯基地
- 四 調査日 十月二十六日・二十七日（二日間）
- 五 出席委員 瀬尾委員長、徳永副委員長、橋口委員、小牧委員、今塩屋委員、井上委員、川添委員、江畑委員
- 六 調査の目的

②漏水による水道料金の減免措置については、申請により一期分を遡及し、減免としているが、サービス向上の観点から、水道使用量メーター検針の際に漏水の可能性を使用者に的確に連絡するなど、更なる早期対応に努められたい。

【自動車運送事業会計関係】  
抜本的な経営見直しに当たっては、住民の不利益にならないよう配慮されたい。

甌島における教育行政、消防・防災行政及びその他所管に関する施設の現況と課題を把握する。

七 所感

教育現場においては、どの学校においても、子どもたちがのびのびと学んでいる姿に安堵するとともに、すべての学校で、一部、複式学級が採用されている点や、今後も児童減少は避けられないことを考えると、子どもたちの健全育成や小中一貫教育推進の観点から、地域や保護者とともに学校教育の在り方について議論していく必要があると感じた。

また、消防・防災行政に関しては、下甌・上甌の各分駐所職員が限られた人員による厳しい勤務条件の中で職務に当たっており、過疎化・高齢化も含めた甌島地域ならではの課題の多さを再認識した。今後も、地域住民と連携しながら、市民の安心・安全が守られるよう期待したい。

なお、今回、開通したばかりの蘭牟田瀬戸一号トンネルをくぐり、鹿島から対岸の上甌島を眺めながら橋梁の架かる位置の説明を受け、位置関係を確認する機会を得た。間近に上甌島を望み、将来橋でつながれば、甌島地域の一体化はもろろん、教育文化の交流、防災安全の向上、医療福祉の向上、観光

行政の推進、経済力の向上などが図られるという期待がますます膨らんだ。これらのためにも、蘭牟田瀬戸架橋の早期の完成を望むものである。

## ■企画経済委員会

- 一 調査事項 ①観光振興について②商業振興について③企業・工業の振興について
- 二 調査先 北海道斜里町、網走市
- 三 調査項目
  - (一) 斜里町における観光振興の取組について
  - (二) 網走市における事業化等スタートアップ支援事業、ものづくりフォロワーアップ事業について
- 四 調査日 十月五日から八日まで（四日間）
- 五 出席委員 古里委員長、森永副委員長、杉園委員、福田委員、高橋委員、佃委員、東委員、小田原委員
- 六 調査の目的
  - 観光振興及び中小企業等活性化施策の現状と市の取組について学び、薩摩川内市への応用、展開を検討するものである。
- 七 所感

①本市にある数多くの観光資源を活用して、トータル的な魅力を創出していくことが重要である。特に、甌島は、有名な観光地になり得ることから、地元の見聞を聴きながら、何から・どこから・いつから手掛けていくのか、早急に検討していく必要がある。

②本市においては、「おもてなしの心」が感じられるような受入体制の充実が、喫緊の課題である。また、観光客を受け入れるための最低限の施設が必要であり、行政において、民間が参入しやすい仕掛けをつくる必要がある。

③先進地をまねるのでなく、独自性のある魅力を発信していくことが重要であり、本市のツーリズム推進活動事業も、メリハリのある展開を期待したい。

④旅行エージェント頼りの観光誘致から、リピーター、滞在型、少人数旅行等の観光形態にシフトしており、広範囲のターゲットにどのように情報発信していくかが大きな課題である。

⑤薩摩川内エピソード百事業を活用した観光資源の発信や、広域観光ルートの開発事業に努め、四季にわたる観光ルートを模索する必要がある。

⑥新鑿真号や九州新幹線全線開業などを生かし、韓国やアジアから